

長野市総合計画審議会作業部会 会議概要（報告）

会議名	市民フォーラム21 第3回 防災・安全部会
日時	平成22年11月12日（金）午後1時から午後3時
会場	長野市役所 第一庁舎8階 第2委員会室
出席者	作業部会員 (敬称略)
	関係課員

会議次第

- 1 開会
- 2 部会長あいさつ
- 3 市民フォーラム21 第2回 防災・安全部会 会議概要について
- 4 ワークショップ
 - (1) ワークショップの進め方について
 - (2) ワークショップ
 テーマ；災害に強いまちづくりの推進
- 5 その他
- 6 閉会

会議の概要（主な決定事項、質疑等）

- 3 市民フォーラム21 第2回 防災・安全部会 会議概要について
 別紙資料のとおり確認した。
- 4 ワークショップ
 - (1) ワークショップについて
 2グループに分かれ、“災害に強いまちづくりの推進”をテーマにワークショップを行った。
 結果、別紙のとおり発表があった。

防災意識の向上～隣近所の助け合い～

不安な人たちのコンタクトを取れるネットワークを普段から機能させることが必要。

市民の被災経験(水害・火災等)を共有する。

自分でできることは、自分ですするという意識が薄い。

住民の方の災害・火災に理解がない人が多い。

最近、防災マップ等整備がきちんとされてきた。

災害に強い町とは、ハード面・ソフト面どちらか。ソフト面(人間関係)が重要。

限界集落等の助け合い

孤立した集落の対応はどうしていくのか。

高齢者の大災害時の対応者だけか。

地域防災計画が市民に理解されていないため、災害時にどう行動したらよいか分からない。

山間地が高齢化となり、近所全員が高齢者となった場所もある。

災害要因による、避難所・避難場所の安全性の確保。

災害のないまちにしたい。

減災対策への取り組みが必要。

地震の時、消火活動はきちんとできるか、心配している。

みんなで助け合う気持ちを持つことが大切である。

ハザードマップの活用

ハザードマップが活用されていない。

ハザードマップに時間や規模、場所の記載も。

水害対策、河川改修も必要だが、側溝の維持など、地域が協力して清掃を行うことが必要。

多様化する災害要因

集中豪雨(ゲリラ)における市街地の被害等まだ、未知である

治山における保水性に問題があるのでは

市域が拡大。危険な箇所が増加した。

ゲリラ豪雨や都市化により、浸水被害が多く発生している。

災害に強い住宅建築について

規模別に発生することを整理することから始める必要がある。

要援護者の支援

災害時における情報伝達が実施されるか不安である。

要援護者の支援について

災害時要援護者の把握が地区全体としてできていない。

要援護者情報がない。

組織機能の強化と連携

市の消防組織は、防災との連携は良好。

水位・雨量観測体制の不足

防災備蓄の充実

組織が機能しているか。していないとすると阻害要因を把握し、改善策を考える。

縦割りで別々に啓発するだけでなく、地域の人たちが顔を合わせて活動する機会を増やし、いかに。

消防団活動の迅速化、使命感

消防団員の安全に対する策

自主防衛の重要性

夜間の被害把握が困難。また、支援も困難である。

防災訓練がされている区と、されていない区がある。

自主防災の活動について、隣組の対応が必要では。

自警団の仕事

自主防災の紙上訓練を実施したらいいか。

情報の共有

病院の受け入れ体制の充実

同報無線の全区長への配備は、情報の共有化から良いことである。

相互情報提供システム。

ソフト事業の充実

市民に災害情報を早く正確に伝える方法

消防団

市役所、消防団との連携が必要

消防団員のなり手がすくない。(住民意識、高齢化)

消防団員の義務化はできないか。

消防団員の居住地以外の担当制にできないか。

消防団活動における訓練のみの団員を募集するのはいいか

災害弱者

災害弱者の緊急救助体制は整いつつある。

地域との連携によって、災害弱者への対策は進んできている。

災害時に障害者・高齢者などの対応はできるのか。

独居世帯(高齢者)への安全対策がもっと必要ではないか。

独居高齢者の援護体制はどうなっているのか(プライバシーとの関わり)

災害弱者の訪問指導を消防団と職員が協力して実施する必要性

災害に関する個人情報に関しては、困難がある。

住民の意識

被災者の生活ケア、心のケアへの不安

自助

公助としての防災計画のみで、自助を促すものが無い

長野市安心の日をつくる。
月一回の防災パスポート確認や持ち出し袋の入れ替え点検。

ハート整備

道路などのインフラ整備が進み、迅速な災害活動が可能となってきた。

森林整備を促進して、治山・治水を推進する必要がある。

大規模災害に備えた消火用水の確保(河川課と連携)

防災体制

市民全員が、応急手当の講習を受けてほしい。

長野市は医療機関が多く、また、受け入れ体制も充実している。

地域ごとに防災体制が整備されている。

自治会内での自主防災役員、消防団員を含め、訓練や話し合いが必要。

高規格救急車が随時導入し、救命率の向上に努めている。

市街地では5分以内に消防車が到着できるように署所の配備に努めている。

消防救急体制が整っている。

緊急消防広域援助隊、全国4000隊が登録して応援体制が整ってきている。

住宅用火災報知機の設置が向上してきており、火災に至らないケースが多い。

自主防災

自主防災組織ができている。組織率が高い。

自主防災組織の訓練を各地区で実施し、災害に備える。

小さい単位での、防災訓練を実施することができないか。

住民の初期消火等の訓練が必要。

避難場所が整いつつある。

安全で安心な避難場所としての公園・広場が少ない。

夜間や、降雨時には歩いていくには、避難場所が遠い

勤務中・営業中に避難する時に、迷いそう

ハザードマップの利用が必要

住民による防災づくりを進めてはどうか。

個人・家庭用の防災手引き、防災パスポートの作成。見直し。

このところ、大きな地震・水害等が起きていない。

住民のイザという災害時の意識が足りないのでは。

耐震(ハート整備)

耐震診断は無料であるのに、受ける人が少ない。

耐震診断から補強工事へ移行する人が少ない。

耐震化を進めるには、施工費が安く出来る工夫をアピールする必要がある。

構造的な違反建築物が多い。

異常気象

最近、防災力を超える災害(ゲリラ豪雨等)の対応に苦慮している。

異常気象による集中豪雨が心配。

異常気象による災害が、対応できるか不安。

ゲリラ豪雨に対する対策が必要ではないか。

災害時のライフライン(水道・下水道・ガス・電気)が不安。

災害時のライフラインで、水道は井戸水利用も考えたらどうか。

情報伝達

防災情報システムが不安。

災害時の情報伝達が正しく、早く伝わるのか。

防災情報システム、屋外スピーカーからの情報が聞こえる。

有線放送で、迷い犬、高齢者のお尋ね等、知らせたいかが。

ある程度 値以上で、作動 機能する広報装置を設置する。

地震速報(ラジオから聞こえた)が、あったらいいと思う